

今後も商工会、地域の発展にまい進

町商工会青年部が設立四十周年を迎え記念式典・祝賀会

昭和四十二年十二月に発足した町商工会青年部(曾我清貴部長が設立四十周年の節目を迎え二月十六日、総合福祉センターで記念式典・祝賀会を行いました。式典では、部員による青年部の歌斉唱、青年部宣言、誓いの言葉が読み上げられ、曾我部長が「諸先輩各位の情熱と努力で四十周年の節目を迎えることができた。これからも時代も担う責任を持ち商工会、地域の発展にまい進したい」とあいさつ。引き続き、六代から十四代の部長を務めた九人に感謝状が贈られました。来賓を代表して藤原町長、河村町議会議長、寺坂町商工会長が祝辞。藤原町長は「スターフェスタや田舎まつりなど青年部の成果は大きい。今後も情熱と想像力と行動力で素晴らしい地域おこしを願っている」と期待を寄せていました。



式典であいさつをする曾我清貴青年部長



歴代部長へ感謝状贈呈(右)市原泰雄さんがOB会を代表しあいさつ

松橋佳乃子さん(富野小・4年)が読書感想文大賞を受賞

平成19年度読書感想文コンクールの表彰式が2月23日、総合ケアセンターゆくりで行われ、入賞した30人の小学生に幅田教育長から賞状や盾が贈られました。

同コンクールは、冬期休業中に本に親しみ心豊かな子どもたちをはぐくむ目的で教育委員会が行っているもので、今年度は84人が応募。入賞者の中から松橋佳乃子さん(写真左)の「十才のきみへ」を読んだ感想文が大賞に輝きました。表彰後、各学年の最優秀賞を受賞した児童たちが感想文を朗読し、会場から大きな拍手が贈られていました。



一人ひとりに賞状と副賞が贈られる

町長から認定証を伝達される河村さん



河村敏弘さん(軽舞)が北海道指導農業士に認定

軽舞地区で稲作や花き栽培を営む河村敏弘さんが、平成19年度北海道指導農業士に認定され2月28日、藤原町長から認定証が伝達されました。

指導農業士は、農業の担い手になろうとする人の受け入れや指導、地域の農業振興に対する助言や協力など行う優れた農業者を認定するもの。藤原町長が「大変だと思いますが頑張ってください」と激励すると河村さんは「突然の認定に私も驚きましたが、頑張ります」と笑顔で応えていました。町内では、種部健一(豊丘)さんに続き2人目。

まちの話題

読み聞かせサークル「おはなしのびっ子」が 胆振管内教育実践表彰を受賞

青少年センターを中心に活動している読み聞かせサークル「おはなしのびっ子」が、平成十九年度胆振管内教育実践表彰を受賞し二月二十二日、室蘭市で菅野滋胆振教育局長から表彰状と盾を受け取りました。平成四年に結成され、現在の会員は八人。月一回、同センターでの読み聞かせ会のほか、ブックスタートへの協力、子育て支援センターや小学校へも訪問。会員の伊藤美弥子さんは「私がこのサークルに入ったのは十年前。その時の赤ちゃんが小学生になり本を読んでいる姿を見ることがうれしくなる。この受賞は活動の励みになるし、今後活動が続けていきます」と笑顔で話していました。



活動姿のエプロンを着用した会員の皆さん

天や世界、町の半分を支えるは女性。厚婦団が婦人大会、JA女性部厚真支部が趣味と工夫展

町婦人団体協議会（藤本昭子会長）が主催し第43回町婦人大会が2月25日、総合福祉センターを会場に行われ、各地区婦人会、団体などから約70人が参加し、手芸や映画鑑賞で交流を深めました。

開会にあたり藤本会長が「会員数が減った分、皆さんにしわ寄せがきていると思うが、何かある時には本日のように集ってもらいたい」とあいさつ。来賓の藤原町長が「天や世界、町の半分を支えるのは女性。女性のうるわさと団結力で地域に貢献され成果をあげていることに感謝します」と祝辞が贈られました。

また、2月29日には、JAとまこまい広域女性部厚真支部（斉藤育子支部長）主催による第42回趣味と工夫展が総合福祉センターで行われ、趣味や食のテーマに沿った農家の女性の皆さんの力作が展示されました。オープニングで斉藤支部長が「今年も女性らしい温かく、癒やしの作品やお腹を満たしてくれる料理を多数出品してくれたことに感謝します」と会場に詰めかけた方々にあいさつをしていました。



お兄ちゃんお姉ちゃんが 今日は先生です

二月十四日、厚真高校（永田敏夫校長）の二年生三十七人が京町保育園を訪れ、グループに分かれ園児たちのクラスに入り一日保育士を務めました。四歳児パンダ組に入った男子生徒たちは英語を通して園児たちと交流を深めようと、手作りのイラスト入りの画用紙などを用意。生徒たちはやさしくゆつくりと英単語の問題を出すと、園児たちは元気よく英語で答えていました。



風雪で農業被害、 「こんな吹きだまりは初めて」

二月二十三、四日の暴風雪により、本町の新町、美里、豊川、富野、上厚真、軽舞地区の各農家がビニールハウスの倒壊や破損による被害をこうむりました。また、厚真市街地でも暴風雪の影響により、各所で吹きだまりが発生。沿道に住む宮副頼明さん（錦町）は「この場所に住んでこんな吹きだまりは初めてだよ」と驚いた表情で話していました。





AEDを寄贈する麻生さん(右)と山口さん

新鮮組、万が一を想定しAEDを寄贈

町商工会、農協各青年部員で構成する「あつま新鮮組」(麻生敏和会長)が2月22日、麻生会長と山口善紀副会長が役場を訪れ、町長に自動体外式除細動器(AED)を手渡しました。

同組は、昭和63年に設立し今年度が20周年の節目。麻生会長は「私たちの力で何とかできる形の残るものということで、特産品販売の収益ややりくりしてAEDを購入した。使わないことにこしたことはないが、人の集まる場所へ設置して欲しい」と言葉を添えました。町では、寄贈されたAEDをスポーツセンターに設置する予定です。

堀口組から少年団へ野球用具を寄贈

東和地区で厚幌導水路の建設工事を請け負っている留萌市の堀口組(堀口亘社長)から、このほど厚真ファイターズ、上厚真ベアーズ両野球少年団に野球用品が贈られました。

この贈呈は、工事にあたり地域にお世話になったことに対するお返しの意味が込められた、同社から子どもたちへのプレゼント。ファイターズには「全員野球 好球必打」と書かれた横断幕、ベアーズには固定ベースなどが三浦健一副社長から両チームのキャプテンに手渡され、両少年団員は声を合わせて「ありがとうございました」と大きな声でお礼をいっていました。



贈られた野球用具を前に両少年団員



映像を交え活動を発表する安藤さん

安藤さん(富野)が里づくり活動発表

2月5日、「とんぼの未来・北の里づくり」胆振ブロック活動組織報告会がむかわ町で行われ、厚南第1地域資源保全協議会の安藤功会長が、今年度から始まった農地・水・環境保全向上対策事業について活動発表しました。この事業は、農地・農業用水等の資源を地域の農業者だけでなく、地域住民などの協力を得て農村環境の保全にも役立つ取り組みを促進するもの。現在、町内では同協議会をはじめ6団体が活動中です。安藤会長は、自治会などと協力した景観形成のための花の植栽や農道・用排水路等の草刈りなどについて活動発表しました。

無免許で道路を走っているようなもの

厚南中学校PTA(渡部孝樹会長)が主催する教育講演会が2月14日、同校を会場に元札幌市PTA協議会長で出会い系サイト規制法案づくりに携わった、磯野爽さん(札幌市)を招き行われました。テーマは、「ケータイやインターネットのトラブルから子どもたちを守るために」。講演では、「無警戒に子どもに携帯電話などを買え与え、ネットに触れさせている。これは、無免許の運転手に車を与え、高速道路を走らせているようなもの」と話し、ネット社会に潜んでいる危険性をまず大人がよく知り、子どもたちと話し合う機会を設ける重要性を喚起していました。



PTAを前に講演する磯野さん